

Eureka XII

六年制通信 No.21 令和6年10月4日(金)号

ヤメロ節

毎年忘れたところに文化庁による「国語世論調査」が新聞紙上に載りますね。「もふもふ」とは「動物などがふんわりと柔らかそう」という意味。「さくっと」は「時間や手間をかけない」こと。ときめくのは「きゅんきゅん」。筋金入りは「ごりごり」。私、別にこれらを不愉快とは感じませんな。「失笑する」とか「うがった見方」などが正しい意味で使われないのは問題だと思いますけど…。それより何より、皆さん、月に一冊も本を読まないと回答した人が初めて50%を越え62.6%に達したそう。これはいけません。君たち、ダメですよ。そんな大人になったら。本を読む大人になって豊かな語彙を身につけること。いつも言うように、多くの映画は原作に勝てません。映像は読書が与えてくれる想像力には及ばないからです。若いうちに好きな作家を見つけて、その人の全作品を読むようになさい。一生の宝になるから。

語彙の増強には歌を覚えるのもいいと思います。今の歌は私にはわからないのですが、昔の歌は、唱歌でも歌謡曲でも歌詞がしっかりしていたように思います。老人の懐古趣味かもしれませんけどね。君たちも今まさに青春の歌というのができつつあるのですよね。今聴いている曲は、いくつになっても青春と結びついて思い出すことでしょう。私は中1で荒井由実の「あの日に帰りたい」、中2でバンバンの「いちご白書をもう一度」、中3で中島みゆきの「時代」、高1でサザンオールスターズの「勝手にシンドバッド」、高2でさだまさしの「雨やどり」、高3で大橋純子の「たそがれマイ・ラブ」、その後すぐサザンの「いとしのエリー」、これらの歌詞はおそらく覚えています。そう言えば、高校時代に生徒会室で仲間と歌った「ヤメロ節」という変な歌がありました。アメリカの「リパブリック讃歌」を知っていますか。「グローリ、グローリ、ハレルーヤ」で、知らないか。教会で歌うこのメロディーが日本に入っているというわけか「おたまじゃくしは蛙の子」になっているのですが、こっちは知っていますかね。「おたまじゃくしは蛙の子、ナマズの孫ではないわいな、それがナニより証拠には、やがて手が出る足が出る」ね。聴いたことあるでしょ。このメロディーのまま「ヤメロ節」を歌います。私の覚えている歌詞だけ紹介しましょう。

- 1 クレオパトラや楊貴妃が 恋をしたとて何ですか
タイムマシンじゃあるまいし いやな世界史やめちまえ
- 2 アリストテレスやシムソンが 頭をひねった問題が
どうしてオイラに解けるけえ いやな数学やめちまえ
- 3 孟子や孔子が酒飲んで 一杯機嫌でくだ巻いた

- 「孟子」や「論語」がわかるけえ いやな漢文はやめちまえ
- 4 ニュートンよくよく暇な奴 梢を見上げて口あけて
屁理屈こねてるその暇に 俺ならリンゴを喰っちゃまう
いやな物理はやめちまえ
 - 5 光源氏の夜遊びは いみじゅうをかしというけれど
オイラにやいみじゅうわからねえ いやな古文はやめちまえ
 - 6 代返ばれて赤くなり 呼びつけられて青くなり
リトマス試験じゃあるまいし いやな化学はやめちまえ
 - 7 きゅうりにカボチャの花が咲き 犬が猫の子生みますか
当たり前ですそんなこと いやな生物はやめちまえ
 - 8 オイラはもともと日本人 外国(げーこく)ことばがわかるけえ
(that) (that) でごまかして いやな英語はやめちまえ
 - 9 ヤメロヤメロ皆やめろ 国語も英語も数学も 社会も理科も皆やめろ
ついでに試験もやめちまえ ついでに学校もやめちまえ
- 面白いでしょ。皆さんも「六年制ヤメロ節」を作ってみてはいかがでしょう。

今週のおすすめ

・杉森久英 『滝田樗陰』 (中公文庫)

杉森さんは伝記小説や評伝の名手。君たちが知っているとしたら『天皇の料理番』かな。三度ドラマになりましたからね。私は最初の、堺正章主演のドラマを観ていました。滝田樗陰は31歳の若さで廃刊寸前の雑誌「中央公論」の編集主幹になり、業界で一番の発行部数にまで育て上げた男です。明治15年に秋田に生まれ旧制二高から東京帝国大学に進学し英語を学びます。仙台の二高、今の東北大学ですが、その先輩に高山樗牛がいたのですね。それで樗陰という号を考えついたようです。「ちょいん」と読みます。本名は哲太郎。私も全く知らなかったのですが「中央公論」は何と西本願寺の若い僧侶たちの機関紙として創刊されたのですね。驚きました。それを若い作家の登竜門へと育て上げた滝田樗陰とはどういう人物か、前から少し興味はあったのですが今回読んでみて、私は司馬遼太郎の『坂の上の雲』を思い出しました。つまり、あの、明治という時代の若者の持つ「熱量」と言いますか、何にでも適度ということがなく全てが過度と言いますか。樗陰も過剰なまでの自信で新しい作家を発掘してはほとんど「強制的に」書かせます。しかし当時の社長は小説を下品なものと忌み嫌っており、例えば「私は真実貴女に惚れました」という書き出しでさえ許せないような人です。これも時代です。今の私たちの感性で昔を判断してはいけません。

樗陰の人力車がうちの前でとまった時の嬉しさは忘れられない、つまりそれは小説家として世に出ることを約束されたものだから。樗陰の評判はそのようなものだったようです。樗陰は43歳の人生を100年分の熱量で生きたのだと思います。本当に明治というのは不思議な時代だと思つづく思います。

BGMは 高石友也 の 受験生ブルース でした…。